

研究発表もうしこみフォーム

氏名：廣田千恵子

氏名のローマ字表記：Hirota Chieko

所属：千葉大学大学院博士後期課程

専門分野：文化人類学、地域研究

発表のタイトル：カザフの天幕型住居内部における装飾の象徴的意味とその変容

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表ではモンゴル国西部バヤン・ウルギー県のカザフ人社会において、天幕型住居内部の家具にほどこされた装飾がどのような象徴的意味を示すものとして機能してきたのか、その時代的変容を踏まえて明らかにする。

カザフ人女性は天幕型住居の内部で使用する家具に様々な模様をほどこす。彼女たちにとって装飾することは、手芸を楽しむ行為であり、社会的な意味をもった行為でもある。たとえば、家具は自宅で使用されるだけでなく、婚姻儀礼において婚資や持参財として贈与もされる。装飾の量や質は、作り手の能力や勤労さ、各世帯の財力といった象徴的意味を示すものとして機能している。

ただし、装飾状況は時代に応じて多様に変化している。その変化は物質的な側面に限らず、装飾を作り、使うことが示す象徴的意味にも及んでいる。しかし、これまでのカザフ装飾文化研究では、物質の形態や技法の記述、伝統文化がいかに残されているかという点の分析が主であり、その意味の変遷について論じられてこなかった。

昨今の手工芸・装飾に関する文化人類学的研究では、インド・ラバーリーにおける手工芸技法の維持の背景や、中国・モン衣装が示す象徴的意味の変遷について、現地社会の動態や通過儀礼と結びつけられながら分析されてきた。本発表ではこれらの研究手法を参考に、カザフ人社会における装飾の象徴的意味の変容の様子を具体的に報告する。

時間軸として、①19世紀末から1940年代頃（バヤン・ウルギー県成立期）、②1950年代から1980年代（社会主義体制期）、③1990年代から現在という3つの区分を設定する。その上で、それら時代におけるA) 牧畜社会、B) 婚姻儀礼、C) 天幕型住居内部における装飾状況の動態を概観する。これにより社会全体の動きの中で、装飾行為に関わる状況がいかに変化し、装飾が作り手・使い手のどのような様子を示す、あるいは判断するものとして機能してきたのか、その解釈を試みる。